

5 - 6 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測（その15）

Crustal Movement Observation in the Fuji River and the Suruga Bay Area (Part 15)

東京大学地震研究所
富士川地殻変動観測所

Fujigawa Crustal Movement Observatory
Earthquake Research Institute, The University of Tokyo

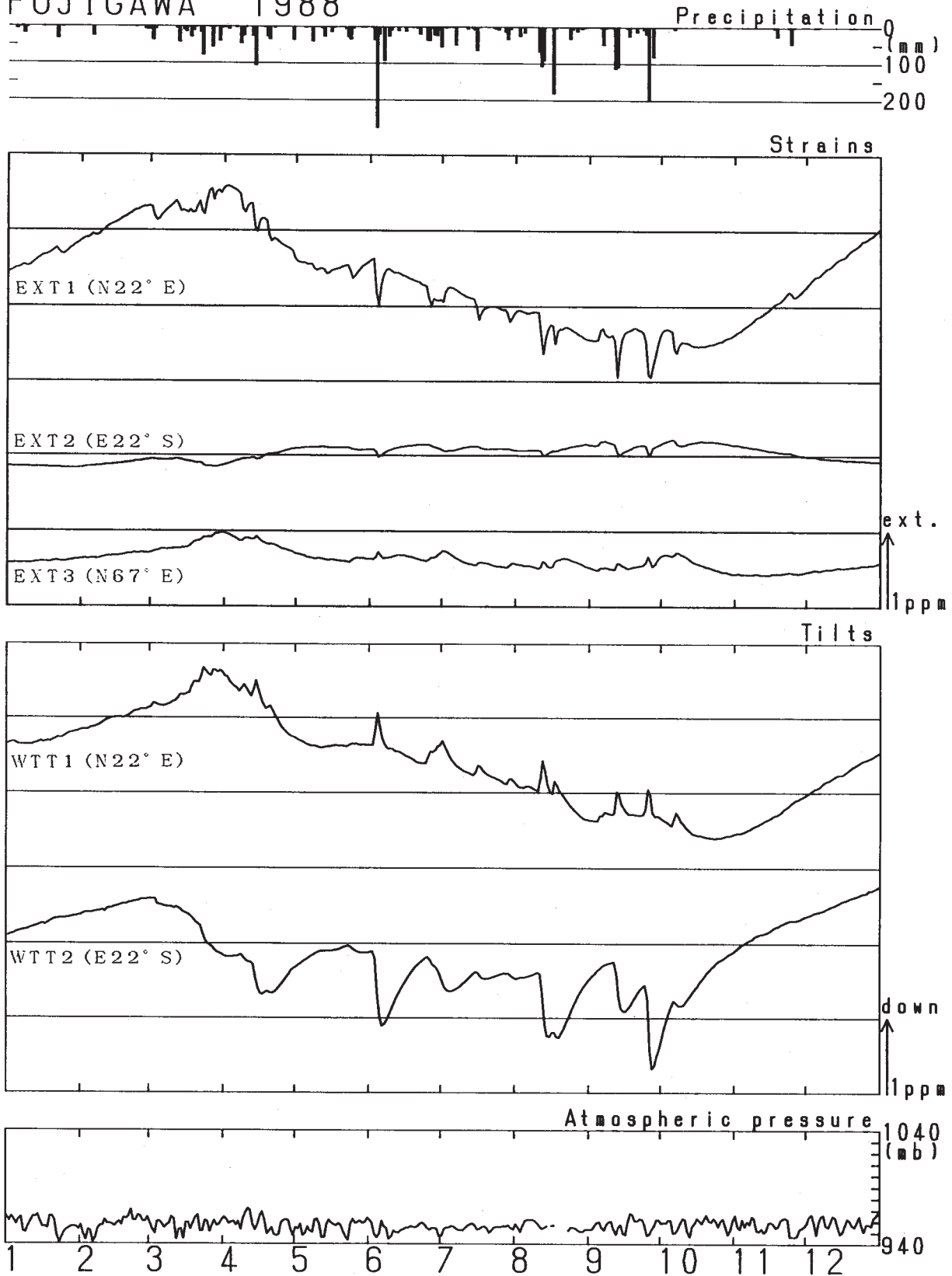
前報¹⁾に引き続き富士川観測所における1988年の観測結果について報告する。第1図は奥山観測点の水晶管伸縮計 (EXT), 水管傾斜計 (WTT), 気圧及び雨量の記録である。傾斜計の記録は自記水管傾斜計の打点記録の読みを読み取り型水管傾斜計の目視記録で補正してある。また, 6月から8月にかけて打点記録に欠測が多かったので気象庁のテレメータ記録を使わせて頂いた。前年までと比較し特に大きな変化は見られない。第2図は読み取り型水管傾斜計の記録の月平均値に基づく傾動ベクトル図である。1986年頃より動きが小さくなっているため, 第2図(b)に1986年以降の部分を拡大して示す。83年頃まで続いた南下がりの傾向が, 84年~85年に東北東上がりになり, 86年以後急速に傾動が停止するという変化を見せていることは注目される。このような変化の原因についてはよくわかっていない。

第3図は富士川微小地震観測網における観測結果である。また, 第4図に旬別震源決定数を示す。3月と5月にかなり大きな群発がみられるがこれらはいずれも奥山周辺の群発地震帯に発生したものであり, 特に例年と大きく異なっている点はない。なお, 4月より奥山観測点では上下動に加え水平動も読み取り, 震源計算に使用している。

参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所富士川地殻変動観測所: 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測 (その14), 連絡会報, 40 (1988), 285 - 290.

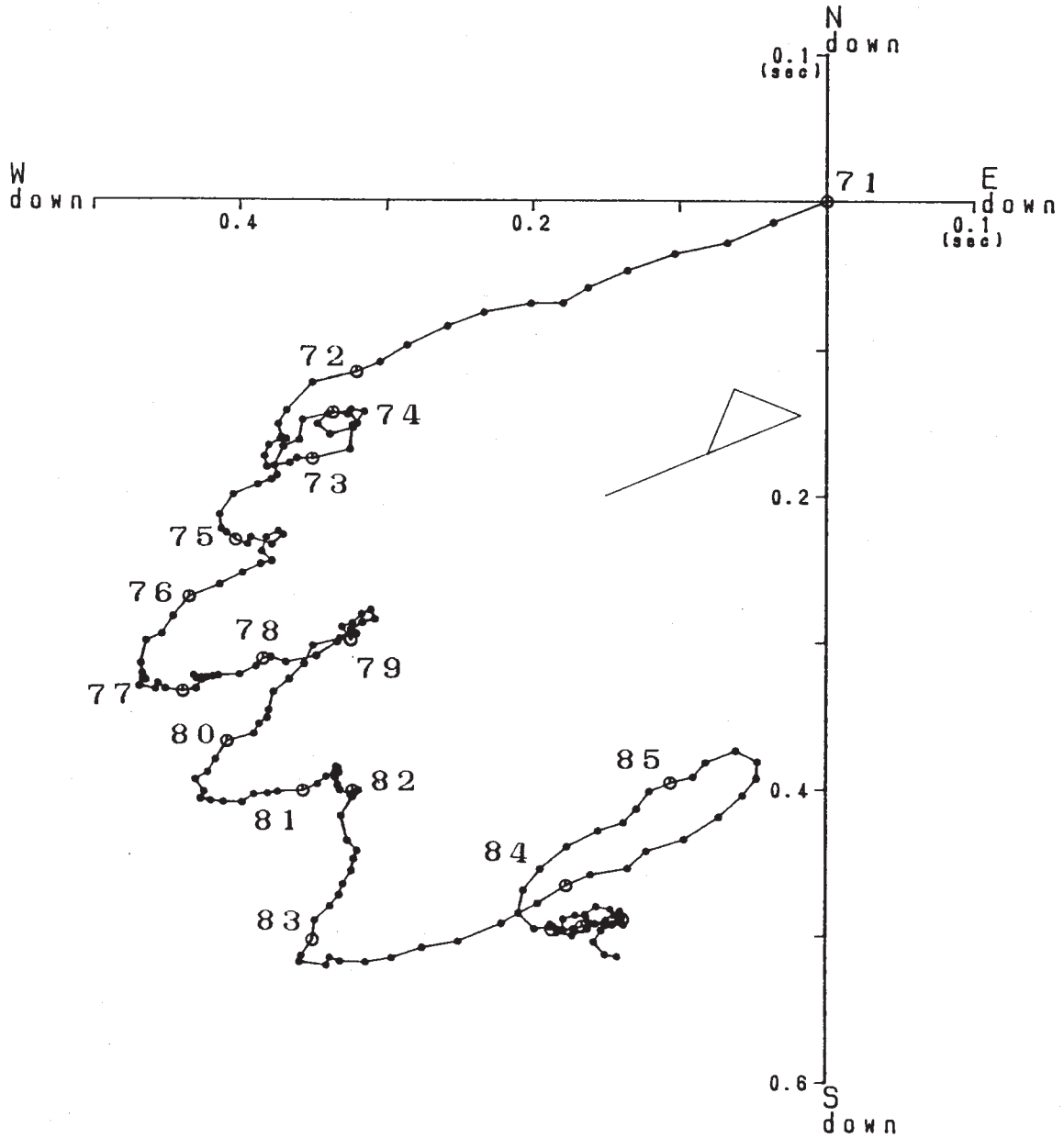
FUJIGAWA 1988



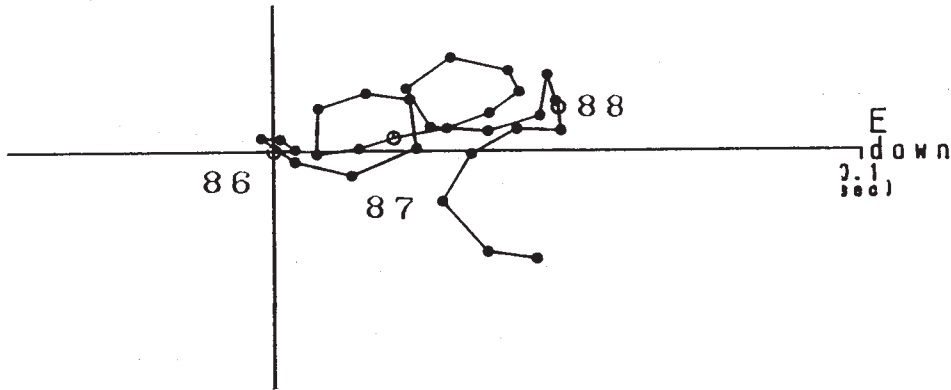
第1図 富士川観測所における水晶管伸縮計 (3成分), 自記水管傾斜計 (2成分), 気圧の日平均記録及び日雨量記録 傾斜記録は読み取り式水管傾斜計の読み取り記録によって補正したもの。

Fig. 1 The earth's strain, tilt, atmospheric pressure (daily average) and daily precipitation at the Fujigawa observatory in 1988. Records of WTT are corrected by the reading type water tube tiltmeters.

(a) FUJIGAWA (1971. 1 -- 1988. 7)

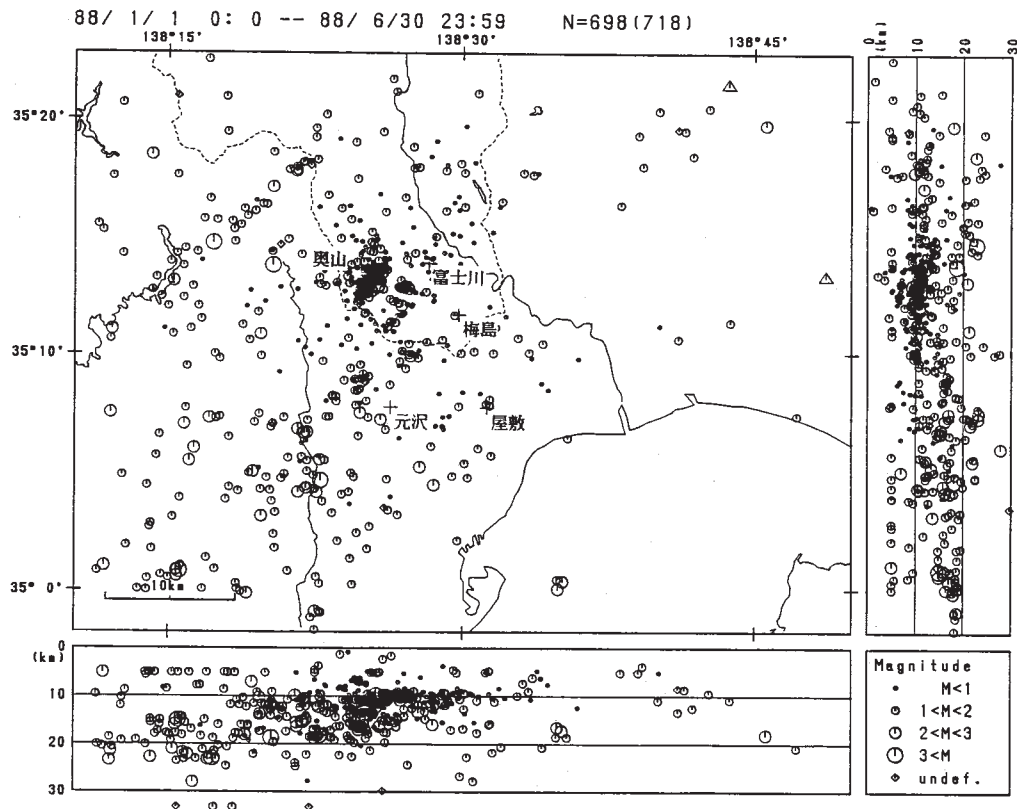


(b) FUJIGAWA (1986. 1 -- 1988. 7)



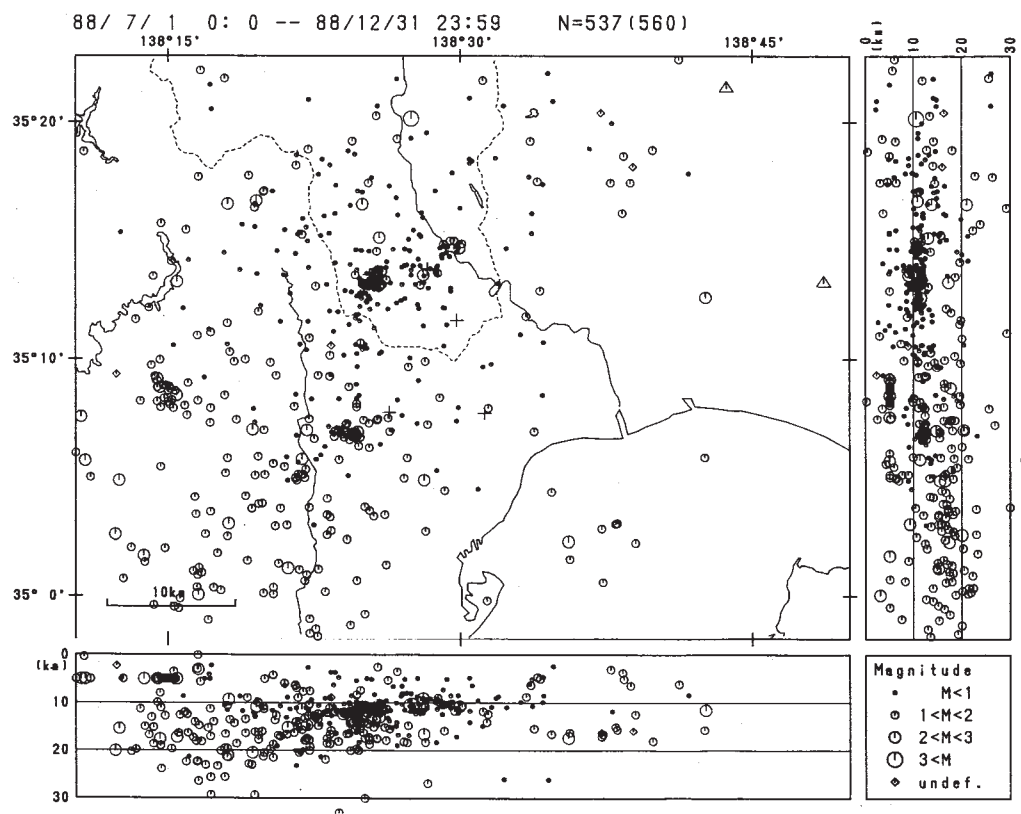
第2図 読み取り型水管傾斜計の月平均値に基づく傾動ベクトル図 (12ヵ月移動平均後)
 (a) 1971年1月~1988年7月 (b) 1986年1月~1988年7月

Fig. 2 Vector presentation of the cumulative tilt (after 12 month's running mean). (a) January, 1971-July, 1988
 (b) January, 1986 - July, 1988.



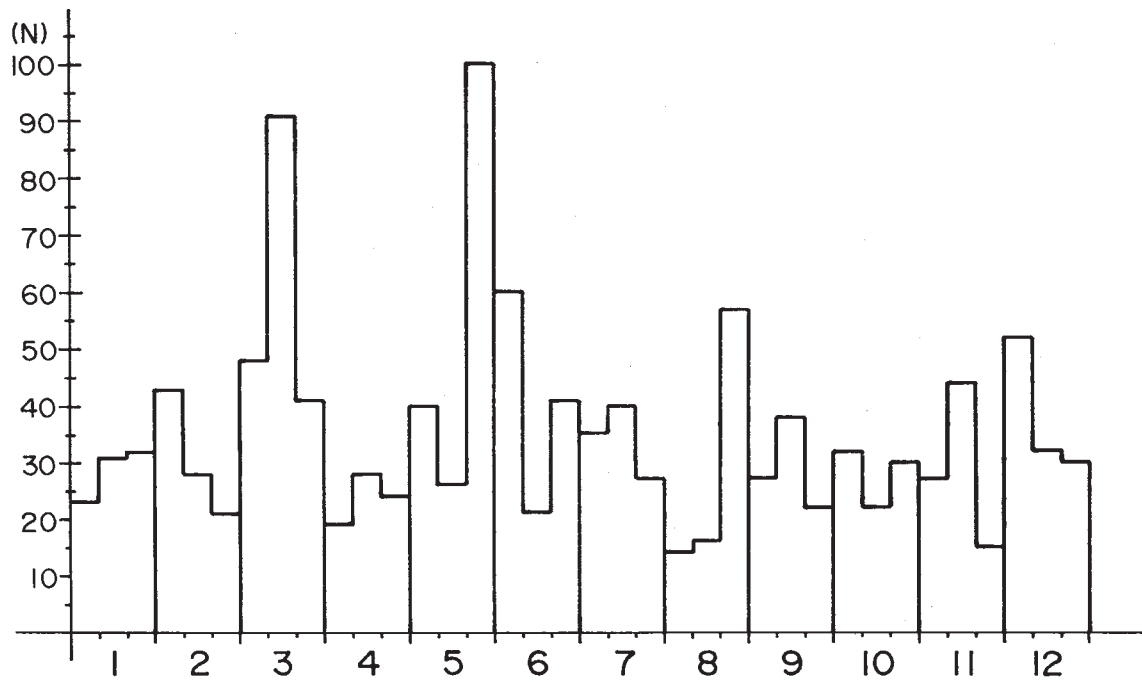
第3図 (a) 富士川微小地震観測網による震源計算結果 (1988年1月～6月) 図右上の数字はプロット数, 括弧内は震源決定数。

Fig. 3 (a) Hypocenter distribution near the Fujigawa observatory for the period of January - June, 1988.



第3図 (b) 富士川微小地震観測網による震源計算結果 (1988年7月～12月)

Fig. 3 (b) Hypocenter distribution near the Fujigawa observatory for the period of July - December, 1988.



第4図 富士川微小地震観測網における旬別震源決定数

Fig. 4 Number of determined hypocenteres at each ten days of the month.